

令和6年度

事業報告書

自：令和 6年 4月 1日
至：令和 7年 3月 31日

愛知県清須市春日新町9-5番地
社会福祉法人西春日井福祉会
理事長 今村 達雄

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.3名 | （前年度 78.8名） |
| (2) 稼働率 | 97.9% | （前年度 98.5%） |
| (3) 平均介護度 | 4.08 | （前年度 4.08） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （夏祭り、餅つき大会、感謝祭） |
| (2) 外出支援 | 3回 | （ショッピング、喫茶外出） |
| (3) 食事関係 | 12回 | （バイキング、季節御膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------|
| (1) 外部研修 | 45回 | 延べ人数69名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （事故防止、感染予防、口腔ケア） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 166回 | （業務改善会議、生活支援委員会、事故防止委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 16回 | （介護事故ケース会議、感染症会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 委員会を通して介護現場の課題を吸い上げ、各部署や職種が連携しながら5S活動及び業務改善に取り組みました。その結果、職員の作業効率が向上し、ミスやムダの削減につながりました。また、職員間の意識改革にもつながり、より質の高い介護サービスの提供ができました。（1-(1)）
- (2) 医療機関や居宅介護支援事業所と連携し、医療依存度、要介護度の高い入所者を受け入れました。受け入れの際には、各専門職が連携し、入所前後の情報共有を密に行うことで、円滑な対応が可能となりました。これにより、入所者の重度化にも柔軟に対応でき、安定した施設稼働率の維持および医療対応体制の充実に貢献しました。また、施設全体の収入基盤の強化にもつながりました。（1-(3)）
- (3) ミールラウンド等を通し、各専門職と連携して入所者を評価することで、ケアプランの修正に努めました。栄養士、看護師、介護職が連携し、食事の摂取状況や身体状況の変化を共有することで、よりきめ細やかな対応が可能となりました。また、担当者会議においては入所者本人およびご家族の声を丁寧に聴き取り、それをケアに反映することで、入所者の生活の質の維持・向上に努めました。（2-(3)）
- (4) 褥瘡リスクの高い入所者を事前に抽出し、専門職を交えた評価に基づいて褥瘡予防計画書を作成しました。その中で、適切なエアマットの導入、定期的な体位変換の実施方法の見直し、皮膚状態のチェック体制の強化などを図りました。また、全職員が褥瘡予防に対する意識を高められるよう、褥瘡対策に関する研修を定期的実施しました。これらの取り組みにより、安全かつ快適な介護環境の提供が可能となり、褥瘡の発生率低下につながりました。（2-(4)）
- (5) 地域包括支援センターと連携し、在宅介護の家族を対象とした「介護者の集い」に参加しました。また、地域住民との連携を強化するために施設訪問を実施するなど、地域における中核的施設としての役割を果たしました。（3-(1)）
- (6) 施設内研修や委員会時に研修を実施することで、認知症ケアや虐待防止などの知識と技術向上を図りました。また、研修を定期的開催することで、職員の意識向上と業務の標準化に取り組むことができました。（4-(1)）
- (7) チューター職員による面談を行い、その結果を役職者と情報共有することで、フォロー体制を強化しました。また、職員が連携することで、新任職員の不安軽減と職場定着につながるなど、働きやすい環境整備を推進できました。（4-(3)）
- (8) 日本語習得に時間を要した技能実習生に個別指導を行うなど、段階的に日本語能力向上を図りました。各担当職員が連携し継続的に支援、育成をすることで、外国人技能実習生2期生1名が介護福祉士の国家試験に合格しました。（5-(2)）

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 18.4名 | （前年度 19.4名） |
| (2) 稼働率 | 91.8% | （前年度 96.8%） |
| (3) 平均介護度 | 3.39 | （前年度 3.51） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （夏祭り、餅つき大会、感謝祭） |
| (2) 外出支援 | 3回 | （ショッピング、喫茶外出） |
| (3) 食事関係 | 12回 | （バイキング、季節御膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------|
| (1) 外部研修 | 45回 | 延べ人数69名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （事故防止、感染予防、口腔ケア） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 166回 | （業務改善会議、生活支援委員会、事故防止委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 16回 | （介護事故ケース会議、感染症会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 委員会を通して介護現場の課題を吸い上げ、各部署や職種が連携しながら5S活動及び業務改善に取り組みました。その結果、職員の作業効率が向上し、ミスやムダの削減につながりました。また、職員間の意識改革にもつながり、より質の高い介護サービスの提供が可能となりました。（(1-1)）
- (2) 医療機関や居宅介護支援事業所と連携し、医療依存度、要介護度の高い利用者を受け入れました。受け入れの際には、各専門職が連携し、入所前後の情報共有を密に行うことで、円滑な対応が可能となりました。これにより、利用者の重度化にも柔軟に対応でき、安定した施設稼働率の維持および医療対応体制の充実に貢献しました。また、施設全体の収入基盤の強化にもつながりました。（1-3））
- (3) ミールラウンド等を通し、各専門職と連携して利用者を評価することで、ケアプランの修正に努めました。栄養士、看護師、介護職が連携し、食事の摂取状況や身体状況の変化を共有することで、よりきめ細やかな対応が可能となりました。また、担当者会議においては利用者本人およびご家族の声を丁寧に聴き取り、それをケアに反映することで、利用者の生活の質の維持・向上に努めました。（2-3））
- (4) 褥瘡リスクの高い利用者を事前に抽出し、専門職を交えた評価に基づいて褥瘡予防計画書を作成しました。その中で、適切なエアマットの導入、定期的な体位変換の実施方法の見直し、皮膚状態のチェック体制の強化などを図りました。また、全職員が褥瘡予防に対する意識を高められるよう、褥瘡対策に関する研修を定期的実施しました。これらの取り組みにより、安全かつ快適な介護環境の提供が可能となり、褥瘡の発生率低下につながりました。（2-4））
- (5) 地域包括支援センターと連携し、在宅介護の家族を対象とした「介護者の集い」に参加しました。また、地域住民との連携を強化するために施設訪問を実施するなど、地域における中核的施設としての役割を果たしました。（3-1））
- (6) 施設内研修及び委員会時に研修を実施することで、認知症ケアや虐待防止などの知識と技術向上を図りました。また、研修を定期的開催することで、職員の意識向上と業務の標準化に取り組むことができました。（4-1））
- (7) チューター職員による面談を行い、その結果を役職者と情報共有することで、フォロー体制を強化しました。また、職員が連携することで、新任職員の不安軽減と職場定着につながるなど、働きやすい環境整備を推進できました。（4-3））
- (8) 日本語習得に時間を要した技能実習生に個別指導を行うなど、段階的に日本語能力向上を図りました。各担当職員が連携し継続的に支援、育成をすることで、外国人技能実習生2期生1名が介護福祉士の国家試験に合格しました。（5-2））

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 28.2名（前年度 27.9名）
 - (2) 稼働率 94.0%（前年度 92.9%）
 - (3) 平均介護度 2.11（前年度 2.17）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（夏祭り、クリスマス会、餅つき大会）
 - (2) 外出支援 1回（雲太寺花祭り）
 - (3) 食事関係 24回（バイキング、季節御膳、お弁当の日）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 8回 延べ人数9名
 - (2) 内部研修 12回（身体拘束虐待防止、事故防止、感染症）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 93回（デイ会議、事故防止委員会、感染症委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回（なし）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 委員会や会議を定期的開催し、利用者対応や介護業務の課題を抽出・分析することで、業務の見直しに取り組みました。また、移乗・排泄介助などの手順を見直し、統一した介助方法をマニュアル化することで、職員間のばらつきを減らし、利用者の安全性を向上させました。これらの取り組みは、職員間の連携強化やチーム力の向上にも寄与し、働きやすい職場環境づくりにつながりました。（1-(1)）
- (2) 利用者の安定的な確保に向けたリーフレットを作成し、居宅介護支援事業所や家族に配布するなど日々の活動内容を発信しました。広報活動を強化することで、新規利用者の確保と利用継続への意欲向上を高めることができました。（1-(3)）
- (3) 利用者の意向を尊重し、選択制レクリエーションを実施しました。選択制レクリエーションを実施することで、楽しみや生きがいを感じられる時間の提供に努めました。これにより、主体的な参加を促し、身体機能や認知機能の維持・向上につなげることができました。また、在宅生活の継続支援や重度化の防止にも効果があり、個別ケアの充実にも寄与しました。（2-(1)）
- (4) 利用者の居宅サービス計画書をもとに、身体機能や生活状況に合わせたプログラム内容を定期的に見直しました。また、専門職と連携し心身の変化や生活課題を共有、分析することで、より適切な対応策を検討しました。これにより、常に利用者のニーズに即した質の高い介護サービスの提供を実現し、利用者の安心感と満足度の向上につながりました。（2-(3)）
- (5) ケアマネジャーと連携し、生活困窮者や支援が必要な利用者の受け入れを強化しました。地域住民との交流を通じて、施設の役割や介護の重要性を広く伝えることができ、地域福祉の一翼を担う中核的存在としての役割を果たしました。（3-(1)）
- (6) 緊急時や事故対応等のシミュレーションを実施し、多職種間で意見交換を行いました。職員の役割の明確化や職場環境の整備により、実効性のある対応策を職員個々のモチベーション向上とサービス品質向上を図りました。（4-(3)）
- (7) 定期的な施設内研修や会議を通じて、職員の介護技術向上と情報共有を図りました。また、多職種連携による、より良い介護実践と利用者の自立支援を実現することで、利用者一人ひとりの尊厳を尊重した個別支援計画の充実を図りました。利用者の自立を支援することを念頭に、機能訓練や生活リハビリを組み合わせ、利用者一人ひとりの尊厳を尊重した支援を行いました。（4-(4)）
- (8) 地震や火災、水害を想定した避難訓練に取り組み、非常設備や避難経路を確認し、災害時の対応力を高めました。また、非常用照明、消火器、避難経路の確認を行い、備蓄品の管理体制についても見直しました。さらに、業務継続計画に基づいたマニュアルを整備し、災害発生時でも必要なサービスが途切れることなく提供できるような体制を構築しました。（5-(1)）

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.4名 | (前年度 78.2名) |
| (2) 稼働率 | 97.9% | (前年度 97.8%) |
| (3) 平均介護度 | 3.89 | (前年度 3.93) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 行事関係 | 22回 | (秋祭り、合唱ボランティア、餅つき) |
| (2) 外出支援 | 4回 | (花見、喫茶店) |
| (3) 食事関係 | 24回 | (行事食、敬老祝い膳、おせち料理) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 13回 | 延べ人数23名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (感染症予防、緊急時急変時対応、褥瘡予防) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 198回 | (運営連絡、事故防止、虐待防止) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 12回 | (感染症予防、介護事故ケース検討) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上と業務効率化のため、プロジェクト委員会を活用し、リーダー職員以外の一般職員の提案や意見を発信できる場を設けました。また、今期はムリ、ムダ、ムラをなくす取組みを中心に、「整理整頓」について課題を挙げて改善したことで、無駄な作業時間の削減、申し送り方法の見直し等、効率化を目指した取り組みを実践しました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤の確立のため、入院者において長期入院が見込まれる場合の、適切な退所の判断や実態に即した要介護度の変更申請を適宜行いました。また、館内の節電対策では、職員更衣室や休憩場所等に掲示物を掲示して視認性を高めることで、全職員が意識して継続的な節電に取り組める仕組みを構築しました。(1-(3))
- (3) 良質な福祉サービスの提供のため、定期的に担当者会議を開催し、家族の意向と多職種協働を踏まえ、入所者一人ひとりの意見を尊重したケアプランを作成しました。(2-(1))
- (4) 職員の介護能力向上に向けた介護技術標準化見える化リストに基づき、統一した指導を行いました。また、内部研修に合わせて外部の方を施設に招いた研修や外部研修に積極的に参加することで職員全体へのレベルアップを図り、良質なサービスの提供につなげました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、豊山町社会福祉協議会主催の介護イベントに参加し、来場者を対象に介護相談や介護機器を体験してもらうことで、地域住民に対して介護啓発を行う事が出来ました。(3-(1))
- (6) 業務効率化に向けた各種会議や委員会で現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜業務マニュアルを更新するなど、業務行動の統一につなげました。また、入所者の排泄パターンの見直しを行い、新人職員の業務負担軽減を含めた改善に取り組みました。(4-(1))
- (7) 各フロアで職員の提案や意見を取り入れた目標を立案し達成へ取り組むことで、職員の士気や満足度向上に結びつけました。特に一般職員を中心に施設全体で職場環境の改善につなげるボトムアップの仕組みを構築するなど、風通しのよい職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 職務能力の開発及び人間力の成長を目的とした人材育成のため、役職職員が指導者となり、個々の職員が自ら考えて行動や実践に移すことができるよう、積極的に研修等に参加を促して教育スキルの構築に努めました。(4-(4))
- (9) 感染症対策の更新やシミュレーションを実施することで、罹患者が発生した際には、職員の初期対応が円滑に共有でき、感染拡大予防につながりました。また、業務継続計画については、適正量の感染防護用品の常備、保管場所など、更新を行うことで緊急時に備える体制を整えました。(5-(1))
- (10) プロジェクト委員会では、技能実習生からの意見を取り入れることが入所者へのサービスの質に直結するという思いから、「技能実習生会議」を定期的にスタートしました。介護管理者と1期生から6期生が一同に集まり、業務内の指導方針や指導体制の統一確認し、業務外では寮でのルールや自己学習に対する心構え等を再確認及び再検討ができました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 18.3名 | （前年度 18.6名） |
| (2) 稼働率 | 91.4% | （前年度 93.1%） |
| (3) 平均介護度 | 2.90 | （前年度 3.14） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 行事関係 | 22回 | （秋祭り、合唱ボランティア、餅つき） |
| (2) 外出支援 | 4回 | （花見、喫茶店） |
| (3) 食事関係 | 24回 | （行事食、敬老祝い膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 13回 | 延べ人数23名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （感染症予防、緊急時急変時対応、褥瘡予防） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 198回 | （運営連絡、事故防止、虐待防止） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 12回 | （感染症予防、介護事故ケース検討） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上と業務効率化のため、プロジェクト委員会を活用し、リーダー職員以外の一般職員の提案や意見を発信できる場を設けました。また、今期はムリ、ムダ、ムラをなくす取り組みを中心に、「整理整頓」について課題を挙げて改善したことで、無駄な作業時間の削減、申し送り方法の見直し等、効率化を目指した取り組みを実践しました。(1-(1))
- (2) 積極的に医療依存度の高い重度の利用者を受け入れることで、計画通りの目標稼働率を達成するなど安定した収入基盤ができました。また、館内の節電対策では、職員更衣室や休憩場所等に掲示物を掲示し、視認性を高めることで、全職員が意識して継続的な節電に取り組める仕組みを構築しました。(1-(3))
- (3) 利用時における総合的な支援内容について、利用者、家族、担当ケアマネジャーが協働で短期入所生活介護計画を作成することで、利用者本位のサービス提供につなげました。(2-(1))
- (4) 職員の介護能力向上に向けた介護技術標準化見える化リストに基づき、統一した指導を行いました。また、内部研修に合わせて外部の方を施設に招いた研修や外部研修に積極的に参加することで職員全体へのレベルアップを図り、良質なサービスの提供につなげました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、豊山町社会福祉協議会主催の介護イベントに参加し、来場者を対象に介護相談や介護機器を体験してもらうことで、地域住民に対して介護啓発を行う事が出来ました。(3-(1))
- (6) 業務効率化に向けた各種会議や委員会で現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜業務マニュアルを更新するなど、業務行動の統一につなげました。また、利用者の排泄パターンの見直しを行い、新人職員の業務負担軽減を含めた改善に取り組みました。(4-(1))
- (7) 各フロアで職員の提案や意見を取り入れた目標を立案し達成へ取り組むことで、職員の士気や満足度向上に結びつけました。特に一般職員を中心に施設全体で職場環境の改善につなげるボトムアップの仕組みを構築するなど、風通しのよい職場づくりにつなげました。
- (8) 職務能力の開発及び人間力の成長を目的とした人材育成のため、役職職員が指導者となり、個々の職員が自ら考えて行動や実践に移すことができるよう、積極的に研修等に参加を促して教育スキルの構築に努めました。(4-(4))
- (9) 感染症対策の更新やシミュレーションを実施することで、罹患者が発生した際には、職員の初期対応が円滑に共有でき、感染拡大予防につながりました。また、業務継続計画については、適正量の感染防護用品の常備、保管場所など、更新を行うことで緊急時に備える体制を整えました。(5-(1))
- (10) プロジェクト委員会では、技能実習生からの意見を取り入れることが利用者へのサービスの質に直結するという思いから、「技能実習生会議」を定期的にスタートしました。介護管理者と1期生から6期生が一同に集まり、業務内の指導方針や指導体制の統一確認し、業務外では寮でのルールや自己学習に対する心構え等を再確認及び再検討できました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 29.6名 | (前年度 29.1名) |
| (2) 稼働率 | 98.1% | (前年度 97.1%) |
| (3) 平均介護度 | 2.07 | (前年度 2.13) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 30回 | (合同イベント、秋祭り、風船バレー大会) |
| (2) 外出支援 | 1回 | (桜花見) |
| (3) 食事関係 | 28回 | (実演調理、バイキング、季節の御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 外部研修 | 3回 | 延べ人数3名 |
| (2) 内部研修 | 14回 | (急変時、緊急時対応、看取り、感染症シミュレーション) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 72回 | (運営連絡会議、デイサービス会議、感染対策委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 5回 | (感染症予防) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 毎月のデイ会議内で業務内容や利用者対応など、課題の改善を行いながら職員間で統一した介護支援が実施できる体制を整えました。また、資質向上の取り組みとして、入浴、認知症ケアの強化を目的とした検討会を開催することができました。(1-(1))
- (2) 居宅介護支援事業所との連携について、要介護者、要支援者の割合を考慮した営業活動を行い、要介護度割合を満たす加算を継続算定することができました。また、支出についても、節電や物品の見直しを行うなどの節約に努めました。(1-(3))
- (3) カルチャー教室では、職員の趣味嗜好と利用者の興味のあることをマッチングさせることで、レクリエーションの活性化を図り、利用者一人ひとりの自己尊重、意欲向上を図ることができました。(2-(1))
- (4) 利用者の在宅生活が継続できるよう、個々の利用者に応じた機能訓練を行うとともに、認知症予防としての回想法やコグニサイズを実施することで、日常生活の活性化を図ることができました。(2-(3))
- (5) 地域におけるセーフティネットとして、行政や各居宅介護支援事業所等の関連機関と連携し、緊急ケースの受け入れに力を入れました。また、公益的な取り組みとして、豊山町社会福祉協議会主催の介護イベントに参加し、来場者を対象に介護相談や介護機器を体験してもらうことで、地域住民に対して介護啓発を行う事ができました。(3-(1))
- (6) 各職種の業務に関する課題や問題点の見直しを行い、それぞれの業務内容を明確化することで、統一した業務を実践することができました。(4-(1))
- (7) 職員の困りごとや悩みなどを傾聴し、必要に応じて業務改善の検討の場を設けることで、風通しのよい職場作りに努めました。(4-(3))
- (8) 個々の職員が責任を持てるように役割の明確化に努めました。年度を通して自ら考え行動する環境を作り、スキルアップ向上につなげることができました。(4-(4))
- (9) 感染症対策の更新やシミュレーションを実施することで、罹患者が発生した際には、職員の初期対応が円滑に共有でき、感染拡大予防につながりました。また、業務継続計画については、適正量の感染防護用品の常備、保管場所など、更新を行うことで緊急時に備える体制を整えました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|-------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 29.5名 | （前年度 28.5名） |
| (2) 稼働率 | 96.1% | （前年度 95.2%） |
| (3) 平均要介護者数 | 14.1名 | （前年度 14.3名） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 10回 | （ゲーム大会、餅つき大会、敬老会） |
| (2) 外出支援 | 50回 | （買い物、外出行事、花見外出） |
| (3) 食事関係 | 33回 | （モーニング、バイキング、敬老祝い御膳） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------|
| (1) 外部研修 | 1回 | 延べ人数1名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （防災訓練、感染対策、事故防止） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 90回 | （感染対策、事故防止、事故防止） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 11回 | （新型コロナウイルス感染対策） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) ケアハウス会議や各種委員会では、認知機能や身体機能についての情報共有が必要な入所者をピックアップして把握や検討できる体制を整えるなど、入所者に適切なサービス提供ができるように努めました。(1-(1))
- (2) 入所希望者に対して、ケアハウスの特色を具体的に説明するなど、生活のイメージをしていただくことで円滑な入所につなげました。また、安定した収入確保のため、空床日数が最小限となるよう、速やかに次の入所待機者を選定し迅速に行動するように努めました。(1-(3))
- (3) 入所者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、日頃の様子やコミュニケーションを図りやすい雰囲気づくりに努めました。また、入所者の希望に合わせたクラブ活動では、カラオケ機器を購入してクラブ活動の充実を図りました。(2-(1))
- (4) 施設内外の会議や委員会、研修などにおいて、多職種協働の視点を学びながら入所者の生活支援方法について検討するなど、より良いサービスの提供ができるように取り組みました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、豊山町社会福祉協議会主催の介護イベントに参加し、来場者を対象に介護相談や介護機器を体験してもらうことで、地域住民に対して介護啓発を行う事ができました。(3-(1))
- (6) 各種会議や委員会において、ケアハウスの課題を多職種と情報共有することで、ケアハウスの業務の見直しと、各種情報記録の統一につなげることができました。(4-(1))
- (7) 他事業所の各職種と密にコミュニケーションを図り、感染症発生時においても円滑に業務が取り組めるように感染症対策マニュアルの見直しを行いました。見直しでは、ケアハウスで感染者が発生した場合、他事業所からの応援体制が必要である実情を把握してもらいました。(4-(3))
- (8) 感染症における業務継続計画について、適正量の感染防護用品の常備、保管場所など、更新を行い緊急時に備える体制を整えました。同時に、風水害の発生に備えた業務継続の見直しを行い、地域住民や関係団体との情報共有や連携強化、夜間震災時の初動対応フロー、被災時の水の補給など、救護、救援可能な体制づくりに努めました。(5-(2))

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 97.3名 | （前年度 98.0名） |
| (2) 稼働率 | 97.3% | （前年度 98.0%） |
| (3) 平均介護度 | 3.80 | （前年度 3.84） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 13回 | （秋祭り、介護の日、年忘れ会） |
| (2) 外出支援 | 5回 | （桜花見、モリコロパーク、ショッピング） |
| (3) 食事関係 | 12回 | （敬老御膳、おせち、満腹御膳） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数52名 |
| (2) 内部研修 | 17回 | （ハラスメント防止、災害対策、苦情対応） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 146回 | （事故防止委員会、虐待防止委員会、衛生委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 7回 | （介護事故ケース検討会、新型コロナウイルス対策会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上活動の一環で、フロアの整理整頓を行いました。長年の間、物置場と化していたスペースの物を片付け、デッドスペースを有効活用することで、業務の効率化につなげました。
（1-（1））
- (2) 適正な収入を確保するため、サービス提供体制の構築等により、介護報酬の増収に努めました。支出面においては、経費削減に努めるとともに、各種備品の購入や修繕を適正に執行しました。
（1-（3））
- (3) 入所者の人権擁護、虐待防止に関する職員教育について、計画通り研修会を開催しました。また、入所者の自己決定の尊重について、入所者の夢であった野球観戦の外出企画を実行するなど、個別ケアを推進しました。
（2-（1））
- (4) ICT機器の外部研修では、これから求められる生産性向上に資する取り組みに関するイメージを持つことができるなど、職員の資質向上につながりました。施設内研修では、中堅職員が講師を担当することで、指導教育に関するスキルの向上を図りました。
（2-（3））
- (5) 主にフォーマルサービス利用前の高齢者や地域のケアラーを対象に、福祉カフェを定期的開催し、専門職からの助言や参加者同士の交流の場をつくることで、地域福祉の増進を図りました。
（3-（1））
- (6) 人材採用については、各種求人媒体を有効活用することで、求職者へ効率的なアプローチが可能となり、必要な人材を確保することができました。
（4-（2））
- (7) 職務のマンネリ化やモチベーションの停滞を防止するため、法人内での交換研修制度を活用しました。参加した職員は他施設や他職種の業務内容を知り、現状を客観視することで、業務の改善や新しい取り組み意欲の向上につながりました。
（4-（3））
- (8) 感染症や災害の発生を想定した訓練及び教育を行いました。防災訓練においては、自助、共助、公助の観点から地元消防団、地域住民、消防署と合同で実施し、非常食の備蓄については計画に基づき適正量を確保しました。
（5-（1））
- (9) 各技能実習生の熟練度に合わせて指導を計画的に実践しました。また、業務上の指導だけでなく、生活における不安の解消やフォローする体制を整えるなど、安心して学ぶことができる環境づくりに努めました。
（5-（2））

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 9.0名 | (前年度 8.2名) |
| (2) 稼働率 | 90.0% | (前年度 82.8%) |
| (3) 平均介護度 | 3.17 | (前年度 3.00) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 13回 | (秋祭り、介護の日、年忘れ会) |
| (2) 外出支援 | 5回 | (桜花見、モリコロパーク、ショッピング) |
| (3) 食事関係 | 12回 | (敬老御膳、おせち、満腹御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数52名 |
| (2) 内部研修 | 17回 | (ハラスメント防止、災害対策、苦情対応) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 146回 | (事故防止委員会、虐待防止委員会、衛生委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 3回 | (介護事故ケース検討会、新型コロナウイルス対策会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上活動の一環で、フロアの整理整頓を行いました。長年の間、物置場と化していたスペースの物を片付け、デッドスペースを有効活用することで、業務の効率化につなげました。
(1-(1))
- (2) 適正な収入を確保するため、サービス提供体制の構築等により、介護報酬の増収に努めました。支出面においては、経費削減に努めるとともに、各種備品の購入や修繕を適正に執行しました。(1-(3))
- (3) 利用者の人権擁護、虐待防止に関する職員教育について、計画通り研修会を開催しました。また、短期入所計画に基づき、各レクリエーションや機能訓練等、個別ケアを実施しました。
(2-(1))
- (4) ICT機器の外部研修では、これから求められる生産性向上に資する取り組みに関するイメージを持つことができるなど、職員の資質向上につながりました。施設内研修では、中堅職員が講師を担当することで、指導教育に関するスキルの向上を図りました。(2-(3))
- (5) 主にフォーマルサービス利用前の高齢者や地域のケアラーを対象に、福祉カフェを定期的開催し、専門職からの助言や参加者同士の交流の場をつくることで、地域福祉の増進を図りました。(3-(1))
- (6) 人材採用については、各種求人媒体を有効活用することで、求職者へ効率的なアプローチが可能となり、必要な人材を確保することができました。(4-(2))
- (7) 職務のマネリ化やモチベーションの停滞を防止するため、法人内での交換研修制度を活用しました。参加した職員は他施設や他職種の業務内容を知り、現状を客観視することで、業務の改善や新しい取り組み意欲の向上につなげました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害の発生を想定した訓練及び教育を行いました。防災訓練においては、自助、共助、公助の観点から地元消防団、地域住民、消防署と合同で実施し、非常食の備蓄については計画に基づき適正量を確保しました。(5-(1))
- (9) 各技能実習生の熟練度に合わせて指導を計画的に実践しました。また、業務上の指導だけでなく、生活における不安の解消やフォローする体制を整えるなど、安心して学ぶことができる環境づくりに努めました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日間を除く）
 - (1) 平均利用者数 29.8名（前年度 26.6名）
 - (2) 稼働率 99.2%（前年度 88.7%）
 - (3) 平均介護度 1.84（前年度 2.00）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 92回（秋祭り、法人合同運動会、デイ夏祭り）
 - (2) 外出支援 5回（桜花見、紫陽花花見、初詣）
 - (3) 食事関係 23回（満腹御膳、バイキング、実演調理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 16回 延べ人数20名
 - (2) 内部研修 31回（感染症予防、認知症ケア、ハラスメント防止）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 89回（デイサービス会議、調整会議、衛生委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 5回（正職会議、運転手会議、新型コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上を図るため、会議内にてPDCA分析により各業務分担内容を見直し、業務内容の改善に努めました。(1-(1))
- (2) 居宅支援事業所や家族との信頼関係の構築に努め、新規利用者の獲得やリピーターの確保につなげることができました。また、支出面においては、経費削減に努めるとともに、各種備品の購入や修繕を適正に執行しました。(1-(3))
- (3) 利用者個々のニーズに応じたレクリエーションの提供や、個々の得意分野を活かした活動を提供することで、利用者一人ひとりの意思を尊重するサービスを提供しました。また、機能訓練の一環で実施した外出行事では、多くの利用者が参加する良い機会となりました。(2-(1))
- (4) デイサービス会議にて研修会を実施し、個々の資質向上に努めることができました。また、利用者に良質なサービスを提供するため、事例検討により具体的に学ぶことで、統一したサービスの提供につなげました。(2-(3))
- (5) フロア内の整理整頓を行い、利用者が安全で過ごしやすい環境を整えました。また、親しみやすい空間づくりのため、季節感を感じられるよう設えや行事を工夫しました。(2-(4))
- (6) 主にフォーマルサービス利用前の高齢者や地域のケアラーを対象に、福祉カフェを定期的開催し、専門職からの助言や参加者同士の交流の場をつくることで、地域福祉の増進を図りました。(3-(1))
- (7) 人材採用については、各種求人媒体を有効活用することで、求職者へ効率的にアプローチが可能となり、必要な人材を確保することができました。(4-(2))
- (8) 法人内での交換研修制度を活用して、業務内容や求められている資質について理解を深めることにより、職員個々の知識向上につながりました。また、職員の趣味特技を活かすことができる企画を実施することで、各職員のモチベーションの向上につなげることができました。(4-(3))
- (9) 感染症や災害の発生を想定した訓練及び教育を行いました。防災訓練においては、自助、共助、公助の観点から地元消防団、地域住民、消防署と合同で実施し、非常食の備蓄については計画に基づき適正量を確保しました。(5-(1))

事業運営

1 利用状況（定員 9名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 8.8名 | (前年度 8.9名) |
| (2) 稼働率 | 98.0% | (前年度 98.5%) |
| (3) 平均介護度 | 1.79 | (前年度 1.53) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|------------------|
| (1) 行事関係 | 26回 | (秋祭り、芋ほり、クリスマス会) |
| (2) 外出支援 | 42回 | (138タワー、清洲城、喫茶店) |
| (3) 食事関係 | 11回 | (重箱ランチ、バイキング) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 4回 | 延べ人数4名 |
| (2) 内部研修 | 25回 | (事故防止、虐待防止、認知症ケア) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 63回 | (ホーム会議、運営推進会議、事故防止委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 2回 | (新型コロナウイルス対策会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務の効率化を図るため、従来からの課題である記録に対する時間削減を目指して改善方法について話し合うなど、業務改善に向けて取り組みました。(1-(1))
- (2) 利用者の健康管理に努めるとともに、入院者による空床が発生した際は、家族や病院と連携することで、空床期間の減少に努め、利用者の退所から次期利用までの空床日数を注視することで稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (3) 調理や洗濯、庭仕事など利用者一人ひとりが持つ能力に合わせて支援しました。また、利用者への適切な介護サービスの提供に資するよう、虐待予防の研修会を開催し、適切な倫理観を教育しました。(2-(1))
- (4) 職員の認知症対応能力向上のため、適切な関わり方や職員が抱える利用者対応の不安などを観点に、事例を交えた認知症ケアの研修を実施しました。(2-(3))
- (5) 近隣のスーパーやショッピングセンターへの買い物外出を通じて、社会参加を促しました。また、家族との面会や外出、外泊など、家族との継続的な交流を支援しました。(2-(4))
- (6) 主にフォーマルサービス利用前の高齢者や地域のケアラーを対象に、福祉カフェを定期的に開催し、専門職からの助言や参加者同士の交流の場をつくることで、地域福祉の増進を図りました。(3-(1))
- (7) 定期的に開催した運営推進会議では、グループホーム内の見学を通じて、出席した地域住民から意見交換や助言を求め、職員にフィードバックすることにより、地域との良好な関係づくりにつなげました。(3-(2))
- (8) 人材採用については、各種求人媒体を有効活用することで、求職者へ効率的にアプローチが可能となり、必要な人材を確保することができました。(4-(2))
- (9) 目標管理シート等を用いて、各職員の不安を小まめに聞きとり、迅速に対応することで働きやすい職場環境づくりに努めました。職員間の関係性も良好になり、職員一人ひとりが自信を持って働くことができるようになりました。(4-(3))
- (10) 感染症や災害の発生を想定した訓練及び教育を行いました。防災訓練においては、自助、共助、公助の観点から地元消防団、地域住民、消防署と合同で実施し、非常食の備蓄については計画に基づき適正量を確保しました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 28.5名 | (前年度 27.4名) |
| (2) 稼働率 | 95.0% | (前年度 91.4%) |
| (3) 要介護者数 | 12.7名 | (前年度 9.2名) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|------|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 106回 | (秋祭り、けん玉大会、甘酒会) |
| (2) 外出支援 | 37回 | (喫茶店、ボランティアフェスタ、わくわく教室) |
| (3) 食事関係 | 28回 | (バイキング、モーニング、実演調理) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 外部研修 | 1回 | 延べ人数1名 |
| (2) 内部研修 | 23回 | (虐待防止、認知症ケア、感染症予防) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 75回 | (事故防止委員会、感染症予防委員会、けあはうす会議) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 2回 | (新型コロナウイルス対策会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務における課題を洗い出し、書類様式の見直しや共有ファイルの活用による情報の一元管理を進めました。業務の見直しと改善を繰り返し、職員間の連携と事務効率の向上を図りました。(1-(1))
- (2) 地域の医療機関や地域包括支援センターと連携し、支援を必要とする高齢者の情報の把握に努めました。また、施設内の節電、節水を意識した運営を行うことで、光熱費等の節約に努めました。(1-(3))
- (3) 日常の対話を通じて、入所者の生活に対する思いを適切に汲み取り、必要に応じて生活面、介護面の助言を行うことで、尊厳を保ちつつ、入所者が主体的に生活できるよう支援しました。(2-(1))
- (4) 地域のイベントや教室、各種クラブ、買い物外出支援など、入所者の社会参加を促しました。また、健康体操や健康、歯科相談、各種レクリエーションの実施により、身体機能の維持、向上を図りました。(2-(3))
- (5) 居室内の空調設備や電気設備の点検を定期的に行い、フィルター掃除や電球交換など居室空間の保全を行いました。(2-(4))
- (6) 主にフォーマルサービス利用前的高齢者や地域のケアラーを対象に、福祉カフェを定期的開催し、専門職からの助言や参加者同士の交流の場をつくることで、地域福祉の増進を図りました。(3-(1))
- (7) 職員との定期面談を実施し、個人目標の振り返りや不安、悩みを共有する場を設け、モチベーション向上につながる職場づくりに努めました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害の発生を想定した訓練及び教育を行いました。防災訓練においては、自助、共助、公助の観点から地元消防団、地域住民、消防署と合同で実施し、非常食の備蓄については計画に基づき適正量を確保しました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.1名 | （前年度 78.4名） |
| (2) 稼働率 | 97.7% | （前年度 97.9%） |
| (3) 平均介護度 | 3.92 | （前年度 4.06） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | （秋祭り、福祉出前講座、合唱隊） |
| (2) 外出支援 | 3回 | （あじさいツアー、ショッピング、福祉観覧デー） |
| (3) 食事関係 | 18回 | （昼食バイキング、ランチ会、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数65名 |
| (2) 内部研修 | 13回 | （ハラスメントについて、看取り、事故防止） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 149回 | （生産性向上委員会、リーダー会議、事故防止委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 8回 | （介護事故ケース会議、感染症会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) グッドアイデア提案制度を開始し、広く職員からの意見を集め、生産性向上委員会にて検討を行うことで業務改善に取り組みました。また、介護用リフト等の福祉用具をユニット間で共有することで介護事故の防止や負担軽減に努めました。(1-(1))
- (2) ユニットで使用する飲料などの消耗品について、年間の予算から毎月の使用量を事前に換算し、月の初めに配布する仕組みを構築しました。適正使用につながり経費の節減を行うことができました。(1-(3))
- (3) 研修の参加について開催の案内や希望者の選出を事前に行い、施設内外を通じて多くの研修会に参加することで、職員の意識や技術の向上に取り組むことができました。(2-(3))
- (4) 来訪者の面会時間制限を緩和し、家族とのつながりを深められるようにしました。また、ユニット内の整理整頓や環境整備を行うことで、居心地の良い空間作りに努めました。(2-(4))
- (5) 近隣の保育園や中学校の訪問行事を積極的に受け入れ、地域との結びつきを感じられる行事を開催しました。また、自治会からの依頼を受けて福祉出前講座に職員を派遣するなど、地域の福祉に関連するニーズの把握や交流を深めることができました。(3-(1))
- (6) 看取り対応の家族を対象とした看取りの会を開催することで、施設で行っているケアについての説明と家族の思いを確認することができました。また、家族交流会や季節行事では、多くの家族の方に参加を募り、施設運営への理解と関係性の構築に努めました。(3-(2))
- (7) 人事考課の際の面談に加え、いつでも誰にでも相談を行えるフリー面談制度を創設し、職員の悩みや思いを見逃さずに関係性を構築できる取り組みを行うなど、働きやすい職場環境に努めました。(4-(3))
- (8) 他施設や他法人への体験型研修では、希望する職員を選定することで、個々の希望と意欲を引き出す取り組みを行い、自施設へ戻ってから入所者の思いを行事企画として形にするなど、より良いケアと人材育成につなげることができました。(4-(4))
- (9) 感染委員会では、感染症発生時の初動対応や初期対応セットを定期的に確認し、感染症のまん延を最小限に抑える取り組みを継続して行いました。また、衛生環境が保たれているかを巡視、巡回することで、スタンダードプリコーションの徹底に努めました。(5-((1)))
- (10) 技能実習生や特定技能外国人では、チューター職員や生活・技能指導員が連携することで、安心して働ける職場環境の構築に努めました。また、介護福祉士の国家試験では、指導者がマンツーマンで指導を行い、1名の合格につなげることができました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 18.5名 | （前年度 19.4名） |
| (2) 稼働率 | 92.6% | （前年度 97.2%） |
| (3) 平均介護度 | 3.03 | （前年度 3.24） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | （秋祭り、福祉出前講座、合唱隊） |
| (2) 外出支援 | 3回 | （あじさいツアー、ショッピング、福祉観覧デー） |
| (3) 食事関係 | 18回 | （昼食バイキング、ランチ会、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数65名 |
| (2) 内部研修 | 13回 | （ハラスメントについて、看取り、事故防止） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 149回 | （生産性向上委員会、リーダー会議、事故防止委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 8回 | （介護事故ケース会議、感染症会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) グッドアイデア提案制度を開始し、広く職員からの意見を集め、生産性向上委員会にて検討を行うことで業務改善に取り組みました。また、介護用リフト等の福祉用具をユニット間で共有することで介護事故の防止や負担軽減に努めました。(1-(1))
- (2) 地域セーフティネットの役割を果たすために、関係機関と連携を図り、重度の要介護者や困難事例な方を受け入れることで、収入の確保と信頼関係の構築に努めました。(1-(3))
- (3) 研修の参加について開催の案内や希望者の選出を事前に行い、施設内外を通じて多くの研修会に参加することで、職員の意識や技術の向上に取り組むことができました。(2-(3))
- (4) 来訪者の面会時間制限を緩和し、家族とのつながりを深められるようにしました。また、ユニット内の整理整頓や環境整備を行うことで、居心地の良い空間作りに努めました。(2-(4))
- (5) 近隣の保育園や中学校の訪問行事を積極的に受け入れ、地域との結びつきを感じられる行事を開催しました。また、自治会からの依頼を受けて福祉出前講座に職員を派遣するなど、地域の福祉に関連するニーズの把握や交流を深めることができました。(3-(1))
- (6) 看取り対応の家族を対象とした看取りの会を開催することで、施設で行っているケアについての説明と家族の思いを確認することができました。また、家族交流会や季節行事では、多くの家族の方に参加を募り、施設運営への理解と関係性の構築に努めました。(3-(2))
- (7) 人事考課の際の面談に加え、いつでも誰にでも相談を行えるフリー面談制度を創設し、職員の悩みや思いを見逃さずに関係性を構築できる取り組みを行うなど、働きやすい職場環境に努めました。(4-(3))
- (8) 他施設や他法人への体験型研修では、希望する職員を選定することで、個々の希望と意欲を引き出す取り組みを行い、自施設へ戻ってから入所者の思いを行事企画として形にするなど、より良いケアと人材育成につなげることができました。(4-(4))
- (9) 感染委員会では、感染症発生時の初動対応や初期対応セットを定期的に確認し、感染症のまん延を最小限に抑える取り組みを継続して行いました。また、衛生環境が保たれているかを巡視、巡回することで、スタンダードプリコーションの徹底に努めました。(5-((1)))
- (10) 技能実習生や特定技能外国人では、チューター職員や生活・技能指導員が連携することで、安心して働ける職場環境の構築に努めました。また、介護福祉士の国家試験では、指導者がマンツーマンで指導を行い、1名の合格につなげることができました。(5-(2))

事業運営

1 入所状況（定員96名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 94.7名 | (前年度 95.0名) |
| (2) 稼働率 | 98.7% | (前年度 99.0%) |
| (3) 平均介護度 | 4.08 | (前年度 4.02) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 12回 | (秋祭り、保育園児来訪、餅つき等) |
| (2) 外出支援 | 12回 | (花見外出、希望外出、はるひ美術館福祉観覧デー等) |
| (3) 食事関係 | 17回 | (バイキング、土用の丑の日、かき氷の日等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数54名 |
| (2) 内部研修 | 14回 | (感染症対策、事故防止、認知症等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 164回 | (運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上や職場環境の改善に係る検討委員会を毎月開催し、書類の作成手順を効率化する等の改善を通じて、職員の負担軽減を図りました。また、介護現場における危険予知活動に注力した結果、骨折事故が昨年度より減少するなど、サービスの質の向上に努めました。(1-(1))
- (2) 利用者や家族の状況に応じて速やかに入所を案内することで、年度を通して安定した稼働率と収入を確保しました。また、入所者の心身の状況が変化した際には、速やかに要介護度の区分変更申請を行うなど、平均要介護度が高い水準で推移し収入増につなげました。(1-(3))
- (3) ボランティア活動の再開により、秋祭り、かき氷の日、土用の丑の日、餅つき等の各種行事の開催や日常の喫茶を実施することで、入所者の喜びとなるとともに、施設と地域住民との交流を図ることができました。(2-(2))
- (4) 入所者に係る情報提出を行うことで、サービスの質の向上に資するL I F E（科学的介護情報システム）の介護報酬加算を取得することができました。(2-(3))
- (5) 多職種が協働して一体的にカンファレンスやミールラウンドに取り組んだことで、情報が共有され効果的なサービスの提供につながりました。また、年度途中からは、職種ごとに分かれていた計画書を一体的計画書に移行しました。(2-(3))
- (6) 定期及び看取り等のカンファレンスでは、本人や家族の意向を聞き取り、気持ちに寄り添った対応ができるように努めました。また、協力医療機関である済衆館病院とのカンファレンスに定期的に参加し、情報共有を行うことで加算を取得しました。(2-(4))
- (7) 入所選考委員会では、地域の実情について外部委員から情報を得られるように努めました。また、地域での生活が困難となった高齢者を、多職種が協働し迅速に受け入れました。(3-(1))
- (8) 清須市国際交流協会主催の「きよす国際交流まつり」に技能実習生を派遣するなど、地域との関係向上に努めました。(3-(2))
- (9) 各ユニットで取組目標を定め、チームとして達成できるよう会議において課題を共有しました。また、日頃から職員に声をかけ、信頼関係を築きながら話しやすい環境の構築に努めたことで、離職者を最小限に抑えることができました。また、ファミリーサンクスデーを通じて、職員の就労場所や環境について、ご家族に理解を深めていただきました。(4-(3))
- (10) 施設内研修で確認した内容については、各ユニットの会議においても伝達するなど、研修に参加できなかった職員にも周知することで、日々の実践に生かせました。(4-(4))
- (11) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対応は初動が極めて重要であることから、感染体制への移行と嘱託医への連絡を迅速に行うなど、重症化やクラスターの発生や予防に努めました。(5-(1))
- (12) 特定技能及び技能実習生のスキルアップでは、勤務上での配慮や教育体制の充実に取り組むことで、介護福祉士試験や技能実習評価試験に合格するなどの実績に結びつけることができました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 28.2名 | (前年度 28.6名) |
| (2) 稼働率 | 93.8% | (前年度 95.4%) |
| (3) 平均介護度 | 3.21 | (前年度 3.23) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 12回 | (秋祭り、保育園児来訪、餅つき等) |
| (2) 外出支援 | 12回 | (花見外出、希望外出、はるひ美術館福祉観覧デー等) |
| (3) 食事関係 | 17回 | (バイキング、土用の丑の日、かき氷の日等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 33回 | 延べ人数54名 |
| (2) 内部研修 | 14回 | (感染症対策、事故防止、認知症等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 164回 | (運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上や職場環境の改善に係る検討委員会を毎月開催し、書類の作成手順を効率化する等の改善を通じて、職員の負担軽減を図りました。また、介護現場における危険予知活動に注力した結果、骨折事故が昨年度より減少するなど、サービスの質の向上に努めました。(1-(1))
- (2) 短期入所から施設入所への切り替えが非常に多かったため、目標とする稼働率は達成できませんでしたが、要介護度の高い利用者や緊急ケースを積極的に受け入れたことで、収入面での影響は最小限に抑えることができました。また、利用者の希望を取り入れたレクリエーションや集団で楽しめる創作活動等を数多く実施したことで、多くの新規利用者やリピーターを確保することができました。(1-(3))
- (3) ボランティア活動の再開により、秋祭り、かき氷の日、土用の丑の日、餅つき等の各種行事の開催や日常の喫茶を実施することで、利用者の喜びとなるとともに、施設と地域住民との交流を図ることができました。(2-(2))
- (4) 短期入所では、LIFE（科学的介護情報システム）が介護報酬加算の対象外とされていることから、情報の提出はありませんでしたが、サービスの質の向上が図られるように努めました。(2-(3))
- (5) 年度間を通して、レスパイトと呼ばれる介護者の急病等による緊急ケースを非常に多く受け入れたことで、介護者の心身の安定の確保、一定期間後の在宅生活への復帰、あるいは施設入所に移行することができました。(2-(4))
- (6) 日頃から居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を強く意識することで、地域での生活が困難となった高齢者を多職種が協働し迅速に受け入れました。(3-(1))
- (7) 各ユニットで取組目標を定め、チームとして達成できるよう会議において課題を共有しました。また、日頃から職員に声をかけ、信頼関係を築きながら話しやすい環境の構築に努めたことで、離職者を最小限に抑えることができました。また、ファミリーサンクスデーを通じて、職員の就労場所や環境について、ご家族に理解を深めていただきました。(4-(3))
- (8) 施設内研修で確認した内容については、各ユニットの会議においても伝達するなど、研修に参加できなかった職員にも周知することで、日々の実践に生かせました。(4-(4))
- (9) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対応は初動が極めて重要であることから、感染体制への移行と嘱託医への連絡を迅速に行うなど、重症化やクラスターの発生や予防に努めました。(5-(1))
- (10) 特定技能及び技能実習生のスキルアップでは、勤務上での配慮や教育体制の充実に取り組むことで、介護福祉士試験や技能実習評価試験に合格するなどの実績に結びつけることができました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業 年始2日間及び秋祭り開催日を除く）
 - (1) 平均利用者数 29.1名（前年度 27.9名）
 - (2) 稼働率 97.1%（前年度 93.0%）
 - (3) 平均介護度 1.94（前年度 2.04）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 28回（運動会、保育園児来訪、餅つき等）
 - (2) 外出支援 3回（花見外出、初詣外出、はるひ美術館福祉観覧デー）
 - (3) 食事関係 17回（お楽しみランチ、おやつバイキング、かき氷の日等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 6回 延べ人数6名
 - (2) 内部研修 12回（感染症対策、事故防止、認知症等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 60回（運営連絡会議、生産性向上委員会、デイサービス会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上の観点から、送迎支援システム「ドライブボス」を導入したことで、送迎業務に係る業務負担が大幅に軽減できました。(1-(1))
- (2) 地域の居宅介護支援事業所に対して必要な情報を適時発信することで、事業所の信頼を得ることができ、年度を通して安定した稼働率と収入を確保しました。また、利用者が楽しみながら機能回復を図ることを目的に、毎日様々なレクリエーションを実施するなど、職員の手作りによる対戦型のゲームや、麻雀、工作、習字等を通じて、心身の活性化を図りました。(1-(3))
- (3) ボランティア活動の再開により、秋祭り、かき氷の日、土用の丑の日、餅つき等の各種行事の開催や日常の喫茶を実施することで、利用者の喜びとなるとともに、施設と地域住民との交流を図ることができました。また、既に活動しているボランティアから新しいボランティアの紹介を受けるなど、ボランティアの輪が広がりました。(2-(2))
- (4) 利用者に係る情報提出を行うことで、サービスの質の向上に資するL I F E（科学的介護情報システム）の介護報酬加算を取得することができました。(2-(3))
- (5) 利用者の自立度が高く、中重度の認知症を有する利用者が少ないことから、認知症加算を取得することができませんでしたが、認知症への理解と正しい対応方法については、個別事例を挙げてグループワークを行うなどの機会を設けました。(2-(3))
- (6) デイサービス会議内で勉強会の時間を設け、日常における入浴業務において困っていることや改善のためのアイデアを聞き出すなど、チーム内で意識共有を図ることで、有効と考えられる技術を取り入れました。(2-(4))
- (7) 日頃から居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を強く意識することで、通所介護サービスが必要な高齢者を、多職種が協働し迅速に受け入れました。(3-(1))
- (8) デイサービス会議では課題の抽出や解決に至るまでのプロセスに関して職員間で意識を共有できるように働きかけるなど、チームとして機能できるように努めました。また、日頃から職員に声かけをし、信頼関係を築きながら話しやすい環境の構築に努めたことで、離職者を最小限に抑えることができました。(4-(3))
- (9) 事業を運営するにあたり、感染症予防、事故防止、認知症への理解等様々な内容の研修実施が求められていることから、デイサービス会議において毎回研修の機会を設けました。(4-(4))
- (10) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対応は初動が極めて重要であることから、利用開始時の体調確認や手洗いうがいを徹底するとともに、利用中に体調不良が認められる際には速やかに帰宅、受診を促すことで、重症化やクラスターの発生の予防に努めました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 96.7名 | （前年度 97.1名） |
| (2) 稼働率 | 96.7% | （前年度 97.1%） |
| (3) 平均介護度 | 4.01 | （前年度 3.87） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | （ふれあい文化祭り、春まつり、合同福祉体験教室等） |
| (2) 外出支援 | 13回 | （喫茶外出、ショッピング、福祉観覧デー等） |
| (3) 食事関係 | 28回 | （季節の御膳、モーニング） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 25回 | 延べ人数35名 |
| (2) 内部研修 | 26回 | （事業方針説明会、ハラスメント対策、褥瘡予防等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 218回 | （入所選考委員会、事故防止委員会、運営連絡会議等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 23回 | （臨時事故防止委員会、臨時感染対策委員会） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 見守り機器運用の課題に対して、収集から要因分析、対策立案までの流れを全体で共有を図ることで、標準的な運用方法の確立に努めました。また、蓄積された入所者のバイタル等のデータ分析を通じて、看取り介護中の入所者の最期の時が予見可能となり、職員の心理的負担軽減を図ることができました。（1-(1)）
- (2) 入所者の日頃の体調や体重等を評価し、回診時や電話連絡でこまめに嘱託医と連携を図ることで、受診や専門外来への紹介状の依頼を行うなど、疾病等の早期発見に努めました。また、自事業所の加算取得の条件に常に留意し、要件を満たした段階で速やかに申請を行うなど、収入の確保に努めました。（1-(3)）
- (3) 入所者一人ひとりの介護ニーズに対応するため、ケアカンファレンスの開催に加え、家族を施設に招いて現状の説明や意向の確認をこまめに行うなど、個別ケアの充実に努めました。また、恒例のモーニングイベントでは、コーヒーを片手に入所者間の交流の促進を図ることで、心身の活性化に努めました。（2-(1)）
- (4) 入所者の心身の変化に合わせて臨時カンファレンスを開催するなど、多職種でケアの内容を共有、見直しすることで、安定した質の高いサービス提供に努めました。また、新任職員へのチェックリストを活用した指導を通じて、指導者や他職員の介助内容等を再確認することができ、全体の資質向上につなげました。（2-(3)）
- (5) 自治会との連携を図り、協働でイベントを開催するなど、地域に根差した運営に努めました。また、福祉の杜と共同で開催した体験教室や近隣小中学校との職場体験等を通じて、入所者と地域社会との連携強化を図りました。（3-(1)）
- (6) 定期的に職員面談を実施することで、職員間の人間関係や介助の技術的な悩みを聞き取り、解決に向けて取り組むなど働きやすい環境づくりに努めました。また、入居者の意向等にに合わせてイベントを企画実施し、感謝の意や笑顔に触れることで、職員のモチベーションアップにつなげました。（4-(3)）
- (7) 施設内研修のほか、会議内でも危険予知トレーニングや医療等の専門的な手技を学ぶ機会を設けることで、施設全体のサービスの質向上に努めました。また、介護デジタル中核人材養成研修を複数名受講することで、職員が主体となって生産性向上の取組を実施する基盤づくりを行いました。（4-(4)）
- (8) 有事に備えて、感染予防用品や災害用備蓄品について、在庫管理を徹底し、適正量の保持に努めました。また、消防設備業者からの設備取扱い説明を職員に対して実施し、実践的な防災スキルの向上を目指しました。（5-(1)）

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 16.8名 | (前年度 17.6名) |
| (2) 稼働率 | 83.9% | (前年度 88.0%) |
| (3) 平均介護度 | 3.19 | (前年度 3.06) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | (ふれあい文化祭り、春まつり、合同福祉体験教室等) |
| (2) 外出支援 | 2回 | (喫茶外出、福祉観覧デー) |
| (3) 食事関係 | 28回 | (季節の御膳、モーニング) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数11名 |
| (2) 内部研修 | 26回 | (事業方針説明会、ハラスメント対策、褥瘡予防等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 187回 | (事故防止委員会、運営連絡会議、感染対策委員会等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 8回 | (臨時事故防止委員会、臨時感染対策委員会) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 見守り機器運用の課題に対して、収集から要因分析、対策立案までの流れを全体で共有を図ることで、標準的な運用方法の確立に努めました。また、蓄積された利用者のバイタル等のデータ分析を通じて、看取り介護中の利用者の最期の時が予見可能になり、職員の心理的負担軽減を図ることができました。(1-(1))
- (2) 自宅での介護が不安な方や退院先が決まらないケースでは、関係機関と連携を図り、サービス提供につなげることで、地域福祉の中核施設としての役割を果たすことができました。また、新規利用者の獲得のため、居宅介護支援事業所へリーフレット等を用いて、空き情報を積極的に伝えました。(2-(1))
- (3) 認知症の進行を予防するため、季節に応じた創作活動を行いました。また、食事行事では、昼食やおやつ作り等を企画し利用者個々が役割を持つことで、活動意欲の向上に努めることができました。(2-(1))
- (4) 利用者の心身の変化に合わせて臨時カンファレンスを開催するなど、多職種でケアの内容を共有、見直しすることで、安定した質の高いサービス提供に努めました。また、新任職員へのチェックリストを活用した指導を通じて、指導者や他職員の介助内容等を再確認することができ、全体の資質向上につなげました。(2-(3))
- (5) 自治会との連携を図り、協働でイベントを開催する等、地域に根差した運営に努めました。また、福祉の杜と共同で開催した体験教室や近隣小中学校との職場体験等を通じて、利用者と地域社会との連携強化を図りました。(3-(1))
- (6) 定期的に職員面談を実施することで、職員間の人間関係や介助の技術的な悩みを聞き取り、解決に向けて取り組むなど働きやすい環境づくりに努めました。また、入居者の意向等にに合わせてイベントを企画実施し、感謝の意や笑顔に触れることで、職員のモチベーションアップにつなげました。(4-(3))
- (7) 施設内研修のほか、会議内でも危険予知トレーニングや医療等の専門的な手技を学ぶ機会を設けることで、施設全体のサービスの質向上に努めました。また、介護デジタル中核人材養成研修を複数名受講することで、職員が主体となって生産性向上の取組を実施する基盤づくりを行いました。(4-(4))
- (8) 有事に備えて、感染予防用品や災害用備蓄品について、在庫管理を徹底し、適正量の保持に努めました。また、消防設備業者からの設備取扱い説明を職員に対して実施し、実践的な防災スキルの向上を目指しました。(5-(1))

事業運営

1 ケアプラン作成状況

- | | | |
|------------|---------|---------------|
| (1) 作成数 | 2, 376名 | (前年度 2, 417名) |
| (2) 予防委託件数 | 263名 | (前年度 336名) |
| (3) 平均介護度 | 2.28 | (前年度 2.37) |

2 相談受付状況

- | | | |
|---------|-----|-----------|
| (1) 全体 | 97名 | (前年度 93名) |
| (2) 地区別 | | |
| ① 清須市 | 86名 | (前年度 79名) |
| ② 北名古屋市 | 4名 | (前年度 12名) |
| ③ 豊山町 | 0名 | (前年度 1名) |
| ④ その他 | 7名 | (前年度 1名) |

3 新規契約・契約終了数

- | | | |
|-----------|-----|------------|
| (1) 新規契約数 | 81名 | (前年度 57名) |
| (2) 契約終了数 | 70名 | (前年度 140名) |

4 認定調査請求数

127名	(前年度 136名)
------	------------

5 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 外部研修 | 25回 | 延べ人数38名 |
| (2) 内部研修 | 9回 | (事例検討、ヤングケアラー、虐待防止) |

6 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 51回 | (定例会議、合同会議、感染委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 定例会議などにおいて、現状の課題を把握し所内で話し合いをすることで、業務改善に向けた取り組みを行うことができました。(1-(1))
- (2) 清須市ホームページに事業所概要を掲載することで、新規利用者の獲得に繋がりました。また、入退院時には、速やかな情報提供を行うなどの加算取得に努めました。(1-(3))
- (3) 利用者、家族の視点に立ち、困り事や意向に対して適切なサービスの提案に努めました。また、定期的なモニタリングでは、生活の達成感や目標の見直しを随時行うなど、満足度を高める支援を図りました。(2-(1))
- (4) 事例検討会では、多角的な視点から問題解決に取り組みました。また、外部研修に参加することで、視野や知見を広げ、研修で得た情報を共有するなど、専門知識を高めサービスの質の向上を図りました。(2-(3))
- (5) 清須市ケアまる会に所属し、各事業所との連携に努め、地域包括支援センターや自治体が主催する地域ケア会議に参加しました。また、包括、自治体からの緊急支援の依頼に迅速に対応するため、平日の出勤体制などの見直しを検討しました。(3-(1))
- (6) 清須市清洲城信長祭りや介護の日に参加し、行政と連携を図り地域福祉の貢献に努めました。また、行事に参加することで、地域の方々とのつながりも深めることができました。(3-(2))
- (7) 所内では、日頃からコミュニケーションを大切にし、働きやすい環境づくりに努め、良好な関係性を保つことができました。(4-(2))
- (8) 担当ケースや業務について、すぐに相談できる雰囲気づくりに努め、相談し合える関係をもつことができました。(4-(3))
- (9) 事業継続計画書に基づき、感染症、災害訓練を行い対応方法の共有に努めました。また、緊急連絡先などの確認を行いました。(5-(1))

事業運営

1 ケアプラン作成状況

(1) 作成数	1, 699名	(前年度 1, 156名)
(2) 予防委託件数	464名	(前年度 307名)
(3) 平均介護度	2.24	(前年度 2.30)

2 相談受付状況

(1) 全体	92名	(前年度 100名)
(2) 地区別		
① 清須市	0名	(前年度 2名)
② 北名古屋市	77名	(前年度 77名)
③ 豊山町	9名	(前年度 19名)
④ その他	6名	(前年度 2名)

3 新規契約・契約終了数

(1) 新規契約数	83名	(前年度 72名)
(2) 契約終了数	56名	(前年度 45名)

4 認定調査請求数

	0名	(前年度 0名)
--	----	----------

5 職員研修

(1) 外部研修	30回	延べ人数36名
(2) 内部研修	9回	(事例検討、虐待防止、業務改善計画)

6 各種会議・委員会

(1) 各種会議	51回	(定例会議、合同会議、感染症委員会)
(2) 臨時会議	0回	

重点取組項目 (※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの)

- (1) 業務効率に向けての研修会への参加や業務内容について所内で話し合いをすることで、業務改善に向けた取り組みを行うことができました。(1-(1))
- (2) 新規相談の受け付けを継続的に行い、利用者の確保に努めることで、目標稼働率を達成することができました。また、予算執行状況を念頭に置き、取得可能な加算の算定や入退院時等の加算取得に努めました。(1-(3))
- (3) 利用者の立場となり、様々な困り事の相談、傾聴を行うなど、適切な在宅サービスの提案に努めました。また、多様なサービスの提案を行うことで、自己選択、自己決定できる支援を図りました。(2-(1))
- (4) 地域ケア会議での事例検討会や外部研修へ積極的に参加することで、専門知識の向上に努めることができました。(2-(3))
- (5) 北名古屋市、豊山町の各ケアマネ会に所属し、ケアマネジャー同士の連携を図ることで、最新の情報に触れる機会を持ち、ケアマネ会と医師会との合同勉強会など、多職種による知識向上に努めました。また、地域包括支援センターと自治体が主催する地域ケア会議に参加するなど、包括、自治体からの緊急支援の依頼に迅速に対応するため、平日の出勤体制などの見直しを検討しました。(3-(1))
- (6) 豊山町しいの木での介護の日に合わせて介護相談を行うなど、地域での認知度を高めることができました。(3-(2))
- (7) 所内では、日頃からコミュニケーションを大切にし、働きやすい環境づくりに努め良好な関係性を保つことができました。(4-(2))
- (8) 担当ケースや業務について、すぐに相談できる雰囲気づくりに努め、相談し合える関係をもつことができました。(4-(3))
- (9) 事業継続計画の内容を精査することで、様々な有事を想定し研修を行い計画内容の見直しすることができました。引き続き、継続的に研修を行うなど、様々な事柄に対して見直しを行います。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員50名 通年営業）

- (1) 平均入所者数 49.5名（前年度 49.8名）
- (2) 稼働率 98.9%（前年度 99.7%）
- (3) 平均障害支援区分 5.33（前年度 5.34）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 9回（杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等）
- (2) 外出支援 29回（ドライブ、ショッピング）
- (3) 食事関係 59回（ご当地メニュー、行事食）

3 職員研修

- (1) 外部研修 32回 延べ人数50名
- (2) 内部研修 29回（新人研修、実務研修、支援研修等）

4 各種会議・委員会

- (1) 定例会議・委員会 228回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）
- (2) 臨時会議・委員会 3回（臨時主任者会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務やサービス内容の課題を抽出し、支援体制及び業務の効率化について、運営会議やユニット会議において検討を行いました。（1-（1））
- (2) 年度内の入退所時には、入退所委員会を開催して受け入れの調整を行うなど、安定的な事業運営に努めました。（1-（3））
- (3) 入所者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。また、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を定期的で開催するなど、虐待防止及び人権擁護、身体拘束の適正化について、職員の意識向上を図りました。（2-（1））
- (4) 季節感の感じられるメニュー、ご当地メニューや行事メニュー等を献立に取り入れ、楽しみのある豊かな食生活となるように努めました。（2-（3））
- (5) 個々のニーズや希望に沿った趣味や運動、創作的活動など、多様な活動の機会を設けながら、余暇活動の充実に努めました。（2-（3））
- (6) 入所者が安心して生活することができる安全で快適な環境づくりに努めました。また、防災環境委員会を設置し、環境整備に取り組むとともに、非常時を想定した避難体制や防犯体制の整備を図りました。（2-（4））
- (7) 入所者の健康増進を図るために健康委員会を開催し、職員の健康に関する意識の向上を図りました。また、感染症対策委員会では、感染症等の予防に努めました。（2-（4））
- (8) 地域の理解と支援に感謝するとともに、地域との交流を図るために、杜の記念祭等の行事を開催しました。（3-（2））
- (9) 地域とのつながりを大切にし、入所者の社会参加を進めました。感染予防に留意しながら、地域の飲食店やコンビニエンスストア等に出かけました。（3-（2））
- (10) 業務の効率化に努め、時間外労働の縮減や有給休暇の取得促進を図ることで、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。（4-（3））
- (11) 計画的に外部研修に職員を派遣することで、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、法人が実施する階層別研修や施設での内部研修へ参加することで、実践力のある職員を育成し、サービスの向上に努めました。（4-（4））
- (12) 感染症や災害が発生した場合に備えて、事業継続計画にもとづき必要なサービスを安定的、継続的に提供できる体制を構築しました。また、研修や訓練等を行い、対応力の強化を図りました。（5-（1））
- (13) 技能実習生が支援技術や知識を適切に習得することができるよう、関係部署と連携して必要な指導体制を整えました。また、日本で安心して生活することができるよう、生活指導や日本語を学べる環境を整備しました。（5-（2））

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 4.4名 | （前年度 5.3名） |
| (2) 稼働率 | 43.8% | （前年度 52.5%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 4.69 | （前年度 4.94） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 9回 | （杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 29回 | （ドライブ、ショッピング） |
| (3) 食事関係 | 59回 | （ご当地メニュー、行事食） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 32回 | 延べ人数50名 |
| (2) 内部研修 | 29回 | （新人研修、実務研修、支援研修等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 228回 | （運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 3回 | （臨時主任者会議） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務やサービス内容の課題を抽出し、支援体制及び業務の効率化について、運営会議やユニット会議において検討を行いました。（1-（1））
- (2) 緊急利用を優先しながら、効率的な利用調整を行うなど、稼働率の向上に努めました。（1-（3））
- (3) 利用者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。また、虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を定期的を開催するなど、虐待防止及び人権擁護、身体拘束の適正化について、職員の意識向上を図りました。（2-（1））
- (4) 利用中は、個々のニーズや希望に沿った活動内容を優先することで、休日においても余暇を楽しむことができるように努めました。（2-（3））
- (5) 家庭を離れる不安等に配慮し、安全で安心できる生活環境の提供に努めました。（2-（4））
- (6) 相談支援センターや事業所等地域の関係機関と連携し、サービスを必要としている地域の方々の利用の充実を図りました。（3-（1））
- (7) 懸案ケースについては、サービス担当者会議等に参加し、相談支援センターや事業所等地域の関係機関と情報共有を図ることで、連携して対応しました。（3-（1））
- (8) 業務の効率化を図り、時間外労働の縮減や有給休暇の取得促進を進めることで、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。（4-（3））
- (9) 計画的に外部研修に職員を派遣することで、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、法人が実施する階層別研修や施設での内部研修へ参加することで、実践力のある職員を育成し、サービスの向上に努めました。（4-（4））
- (10) 感染症や災害が発生した場合に備えて、事業継続計画にもとづき必要なサービスを安定的、継続的に提供できる体制を構築しました。また、研修や訓練等を行い、対応力の強化を図りました。（5-（1））
- (11) 技能実習生が支援技術や知識を適切に習得することができるよう、関係部署と連携して必要な指導体制を整えました。また、日本で安心して生活することができるよう、生活指導や日本語を学べる環境を整備しました。（5-（2））

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）
 - (1) 平均利用者数 65.6名（前年度 66.8名）
 - (2) 稼働率 96.5%（前年度 98.2%）
 - (3) 平均障害支援区分 5.23（前年度 5.25）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 9回（杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 29回（ドライブ、ショッピング）
 - (3) 食事関係 59回（ご当地メニュー、行事食）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 32回 延べ人数50名
 - (2) 内部研修 29回（新人研修、実務研修、支援研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 228回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 3回（臨時主任者会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 日常業務やサービス内容の課題を抽出し、支援体制及び業務の効率化について、運営会議やユニット会議において検討を行いました。（1-（1））
- (2) 新規利用や利用回数増の希望に応じられるよう、効率的な利用調整を行うことで、稼働率の向上に努めました。また、通所主任者会議や日中活動調整会議を開催し、各グループ活動の調整を行うなど円滑な運営に努めました。（1-（3））
- (3) ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の理解者や支援者の増加に努めました。また、ボランティア交流会を開催することで、ボランティアの定着を図りました。（2-（2））
- (4) 利用者のニーズや希望に沿った活動となるよう、プログラムや実施方法を工夫しました。また、計画相談部門と連携をしながら個別支援計画を作成し、個別支援の充実を図りました。（2-（3））
- (5) 利用者の健康増進を図るため、健康委員会を開催するなど、職員の健康に関する意識の向上を図りました。また、感染症対策委員会では、感染症等の予防に努めました。（2-（4））
- (6) 喫茶ギャラリーこもれびにおいて、利用者による接客や清掃、花の水やり等の活動を行うなど、地域住民との交流を図りました。（3-（1））
- (7) 地域とのつながりを大切にし、利用者の社会参加を進めました。感染予防に留意しながら、地域の飲食店やコンビニエンスストア等に出かけました。また、地域との交流を図るため、杜の記念祭や民生委員との交流会を開催しました。（3-（2））
- (8) 地域からの信頼と協力を得るため、施設の情報発信に努めました。施設の生活や活動について理解を得られるよう、Instagramの配信や広報誌杜のたよりを発行して関係者へ配布しました。（3-（2））
- (9) 西春日井地域福祉の店や地域のイベントへの出店を通して、障害理解の促進を図りました。また、喫茶ギャラリーこもれびを運営し、地域住民との交流を図るとともに、障害者福祉や高齢者福祉に関する情報発信に努めました。（3-（2））
- (10) 将来の福祉人材の視点から、中学生の職場・福祉体験学習等を受け入れるとともに、高齢者施設と協働して小学生の福祉体験教室を開催しました。（4-（2））
- (11) 計画的に外部研修に職員を派遣することで、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、法人が実施する階層別研修や施設での内部研修へ参加することで、実践力のある職員を育成し、サービスの向上に努めました。（4-（4））
- (12) 感染症や災害が発生した場合に備えて、事業継続計画にもとづき必要なサービスを安定的、継続的に提供できる体制を構築しました。また、研修や訓練等を行い、対応力の強化を図りました。（5-（1））
- (13) 技能実習生が支援技術や知識を適切に習得することができるよう、関係部署と連携して必要な指導体制を整えました。また、日本で安心して生活することができるよう、生活指導や日本語を学べる環境を整備しました。（5-（2））

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | | |
|------------|------|------|-------|
| (1) 平均利用者数 | 0.2名 | （前年度 | 0.1名） |
| (2) 稼働率 | 0.9% | （前年度 | 0.7%） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用増加を図ることで、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (2) 利用者一人ひとりの個性や障害特性に合わせ、その人らしい生き方や自己実現に配慮した支援に努めました。また、利用者のニーズに沿った創作的活動や生産活動を提供することで、生活意欲の向上を図りました。(2-(1))
- (3) 生活介護を利用できない障害者に日中活動の場を提供することで、生活に楽しみと潤いを持ちながら安心して地域で暮らせるよう努めました。(2-(1))
- (4) 複数のサービスを利用しているケースや支援課題を抱えているケースでは、相談支援センターや事業所等地域の関係機関等と情報共有を図るなど、連携して対応しました。(3-(1))
- (5) 計画的に外部研修に職員を派遣することで、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、法人が実施する階層別研修や施設での内部研修へ参加することで、実践力のある職員を育成し、サービスの向上に努めました。(4-(4))

事業運営

1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 0.8名 | （前年度 1.4名） |
| (2) 稼働率 | 15.5% | （前年度 28.4%） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用増加を図ることで、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (2) 一時的な見守り支援を行うだけでなく、利用者のニーズに沿った創作的活動や生産活動を提供することで、生活意欲の向上を図りました。(2-(1))
- (3) 一時的に支援が必要な障害者を預かることで、家族の介護負担を軽減し、安心して地域で暮らせるように努めました。(3-(1))
- (4) 複数のサービスを利用しているケースや支援課題を抱えているケースでは、相談支援センターや事業所等地域の関係機関等と情報共有を図るなど、連携して対応しました。(3-(1))
- (5) 計画的に外部研修に職員を派遣することで、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、法人が実施する階層別研修や施設での内部研修へ参加することで、実践力のある職員を育成し、サービスの向上に努めました。(4-(4))

令和6年度 障害者支援施設尾張中部福祉の杜 事業報告書
(居宅介護事業、行動援護事業、重度訪問介護事業、移動支援事業)

事業運営

○ 居宅介護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

(1) 利用者数 187名（前年度 181名）

(2) 延べ利用時間 1,317.0時間（前年度 1,282.5時間）

○ 行動援護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

(1) 利用者数 61名（前年度 48名）

(2) 延べ利用時間 312.0時間（前年度 303.0時間）

○ 重度訪問介護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

(1) 利用者数 12名（前年度 10名）

(2) 延べ利用時間 342.5時間（前年度 267.5時間）

○ 移動支援事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

(1) 利用者数 512名（前年度 442名）

(2) 延べ利用時間 3,497.0時間（前年度 2,763.0時間）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 新規の利用希望者を受け入れるため、サービス内容の工夫や変更を提案するなど、できるかぎり対応することで収入基盤が安定するように努めました。(1-(3))
- (2) 利用者のニーズを把握し、本人の自己決定、自己選択に配慮した支援の提案に努めました。また、感染症等に留意しながら、公共交通機関の利用、遊園地やスポーツジム等への外出支援を行いました。(2-(1))
- (3) サービスを利用された方へのモニタリング調査を実施することで、利用者のニーズ把握やサービスの満足度の把握に努めました。(2-(3))
- (4) サービス提供記録、個別支援計画等を職員間で確認することで、連携を図りながら適切かつ良質なサービスの提供に努めました。(2-(3))
- (5) 複数のサービスを利用しているケースや支援課題を抱えているケースでは、相談支援センターや事業所等地域の関係機関等と情報共有を図るなど、連携して対応しました。(3-(1))
- (6) 居宅介護事業の内容を、広報誌杜のたよりや障害者相談支援センター情報誌杜の風だよりに随時掲載することで、地域での理解を深めるよう努めました。(3-(2))
- (7) 休日、同性介護、長時間の移動支援等の利用希望に応えられるよう、登録ヘルパーの確保に努めました。(4-(2))
- (8) 業務の効率化を図り、時間外労働の縮減や有給休暇の取得促進を進めることで、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。(4-(3))
- (9) 障害者支援の知識や技術の習得のため、ヘルパー会議やケース検討会への参加、施設内外の研修を受講することで、職員のスキルアップに努めました。(4-(4))
- (10) 感染症や災害が発生した場合でも、安定的、継続的にヘルパー業務を行うことができるよう、サービス提供責任者が利用者のフェイスシートや名簿の整理を行い、利用者の状況把握に努めました。(5-(1))

事業運営

1 利用状況（定員なし 土日祝日、年末年始6日除く）

(1) 計画相談（ケアプラン含）	6 1 0 件	（前年度	6 7 5 件）
(2) 障害支援区分認定調査	5 0 件	（前年度	2 6 件）
(3) 電話相談	2, 6 6 9 件	（前年度	1, 5 5 9 件）
(4) 来所相談	4 5 5 件	（前年度	3 8 3 件）
(3) 訪問相談	8 4 8 件	（前年度	6 7 7 件）
総計	4, 6 3 2 件	（前年度	3, 3 2 0 件）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 事業運営体制の安定化を図るため、IT活用によりケース記録、計画等の作成、請求業務の標準化に努め、サービス情報の共有化、業務の効率化を推進しました。(1-(1))
- (2) 法令遵守を念頭においた事業運営を継続的に遂行するため、障害者総合支援制度及び関係法令の改正内容を把握し、適正に業務推進ができるよう努めました。(1-(4))
- (3) サービス計画の策定では、利用者の意向を念頭においたサービスの選択肢を提示するなど、利用者及びその家族等に対して十分な説明と理解を得るよう努めました。また、モニタリングによる検証を重視した計画を必要に応じて見直し、追加を行うことで、サービスの質の確保に努めました。(2-(3))
- (4) 圏域の地域生活支援拠点の円滑な運営に向けて、2市1町と協議しながら、拠点機能の充実に向け仕組みや体制づくり等を進めるとともに、障害のある方が希望する地域で暮らし続けられるようコーディネートを行いました。(2-(4))
- (5) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局運営を行い、地域の障害児・者、家族が必要としているサービスの把握に努め、圏域内の事業所等と協働して障害福祉の充実にに向けた取り組みを実施しました。(3-(1))
- (6) 愛知県地域アドバイザー業務を受託し、障害福祉関係の地域情報や国の施策の動向などを圏域内外の関係者と共有し、圏域の障害者支援協議会の活性化や障害特性等の研修会の開催や相談支援体制の強化等に努めました。(3-(1))
- (7) 障害者相談支援センター情報誌杜の風だよりを隔月で発行しました。(3-(1))
- (8) 圏域障害者情報の発信基地として、喫茶ギャラリーこもれびや西春日井地域福祉の店で相談支援等を含めた情報を発信しました。(3-(2))
- (9) 業務の効率化を図り、時間外労働の縮減や有給休暇の取得促進を進めることで、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。(4-(3))
- (10) 福祉人材の充実に向け、専門性の高い相談支援が実践できるよう主任相談員研修や現任研修、専門的な外部研修を受講することで、キャリアアップの仕組みを整え職員の定着及び育成に努めました。(4-(4))
- (11) 感染対策や災害対策等の業務継続を念頭にしたマニュアル等を適宜見直し、職員間で周知徹底し計画的に訓練することで、リスク管理に努めました。(5-(1))

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 9.5名 | （前年度 9.4名） |
| (2) 稼働率 | 95.1% | （前年度 93.9%） |
| (3) 平均支援区分 | 4.86 | （前年度 4.79） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 6回 | （家族交流会、夏祭り、クリスマス、記念祭、節分等） |
| (2) 外出支援 | 33回 | （ドライブ、買物、喫茶、水族館、リトルワールド等） |
| (3) 食事関係 | 1回 | （お疲れ様会） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------|
| (1) 外部研修 | 24回 | 延べ人数24名 |
| (2) 内部研修 | 5回 | （虐待防止、感染症予防等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|---------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 28回 | （こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) こだち会議において、業務内容を日課に沿って一つずつ確認し、支援手順や注意点を全員が共有することで、業務の標準化や効率化を図りました。(1-(1))
- (2) 体験利用希望者を積極的に受け入れ、稼働率の向上を図りました。(1-(3))
- (3) 虐待防止対応検討委員会を開催し、日常の対応を振り返って不適切な支援がなかったかを確認し合い、虐待防止に対する職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (4) 利用者の希望や障害特性に応じて作成した個別支援計画に沿った支援を行うなど、モニタリングで家族や職員の意見を聞きながら、本人のニーズに即したサービス提供をするように努めました。(2-(3))
- (5) 近隣だけでなく水族館や娯楽施設など、個人の希望に沿った遠出の外出を実施することで、余暇の充実を図りました。また、家族交流会を開催し、一緒に踊りの観賞や食事をするすることで、家族との親睦を深めました。(2-(3))
- (6) 日中グループホームで過ごす利用者に対して、本人の特性や希望に沿った運動や創作活動、園芸等の活動を提供することで、楽しみや生きがいを感じられるような活動内容を工夫しました。(2-(3))
- (7) 安心安全な環境づくりのため、扉やフロアカーペットなどの不具合については、職員が早めに修繕等を行いました。(2-(4))
- (8) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会において、日中サービス支援型グループホームの業務内容を報告し、問題なしとの評価を受けました。(3-(1))
- (9) 自治会主催の桜まつりや夏祭りに参加するなど、地域住民との交流を図りました。(3-(2))
- (10) 些細なことでも相談したり提案したりできるよう、日ごろから話しやすい雰囲気をつ心がけ、明るい職場づくりに努めました。(4-(3))
- (11) 外部研修では、サービス管理責任者研修や済衆館病院主催の感染対応研修などに参加することで、必要な知識や資格を取得しました。また、内部研修では、虐待防止の研修や業務継続計画研修を実施することで、職員の意識向上を図りました。(4-(4))
- (12) 感染症対策委員会を開催し、感染情報や日常の感染対策を確認するとともに、感染対策研修を実施するなど、職員の感染予防意識の向上に努めました。インフルエンザに1名罹患しましたが、早期に対応することで他者への感染を防ぐことができました。(5-(1))
- (13) 大規模災害に備え、業務継続計画にもとづいた研修や炊き出し訓練を行い、職員の防災意識の向上を図りました。(5-(1))

事業運営

- 1 利用状況（定員 1名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 0.0名（前年度 0.1名）
 - (2) 稼働率 0.0%（前年度 5.3%）
 - (3) 平均支援区分 —（前年度 5.27）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 6回（家族交流会、夏祭り、クリスマス、記念祭、節分等）
 - (2) 外出支援 33回（ドライブ、買物、喫茶、コンサート、リトルワールド等）
 - (3) 食事関係 1回（お疲れ様会）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 24回 延べ人数24名
 - (2) 内部研修 5回（虐待防止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 28回（こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) こだち会議において、業務内容を日課に沿って一つずつ確認し、支援手順や注意点を全員が共有することで、業務の標準化や効率化を図りました。(1-(1))
- (2) 緊急対応の利用者はありませんでした。(1-(3))
- (3) 虐待防止対応検討委員会を開催し、日常の対応を振り返って不適切な支援がなかったかを確認し合い、虐待防止に対する職員の意識向上を図りました。(2-(1))
- (4) 緊急利用時においても、個々の希望や障害特性に沿った活動が提供できるように受け入れ準備を行いました。(2-(3))
- (5) 家庭を離れる不安に配慮し、安全で安心できる生活環境づくりに努めました。(2-(4))
- (6) 地域生活支援拠点の相談支援専門員と連携することで、緊急時に円滑に利用できるよう努めました。(3-(1))
- (7) 相談支援事業所や市町と連携することで、緊急利用後の調整など、それぞれのニーズに沿った支援が行えるように努めました。(3-(1))
- (8) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会において、日中サービス支援型グループホームの業務内容を報告し、問題なしとの評価を受けました。(3-(1))
- (9) 些細なことでも相談したり提案したりできるよう、日ごろから話しやすい雰囲気を心がけ、明るい職場づくりに努めました。(4-(3))
- (10) 外部研修では、サービス管理責任者研修や済衆館病院主催の感染対応研修などに参加することで、必要な知識や資格を取得しました。また、内部研修では、虐待防止の研修や業務継続計画研修を実施することで、職員の意識向上を図りました。(4-(4))
- (11) 感染症対策委員会を開催し、感染情報や日常の感染対策を確認するとともに、感染対策研修を実施するなど、職員の感染予防意識の向上に努めました。インフルエンザに1名罹患しましたが、早期に対応することで他者への感染を防ぐことができました。(5-(1))
- (12) 大規模災害に備え、業務継続計画にもとづいた研修や炊き出し訓練を行い、職員の防災意識の向上を図りました。(5-(1))

1 事業種別

ネパールの関係機関等と連携し、研修事業の受託、講師の派遣等を通じて、介護職種の人材確保を行う事業

2 事業実績

ネパールへの講師派遣

(1) 派遣期間

令和7年2月12日（水）から2月25日（火）までの2週間

(2) 派遣場所

ネパール首都カトマンズ

Mei h o k u T r a i n i n g P v t . L t d（メイホクトレーニングセンター）

(3) 派遣職員

1名 事務局事業推進課 推進長（介護福祉士、日本語教師養成講座修了）

(4) 派遣内容

① 令和7年度入国予定の技能実習候補生に対する介護の日本語授業の講師

② 日本語入国必須資格である日本語能力試験N4取得支援授業の講師

③ 入国確定者（N4取得者）に対する日本語能力向上支援授業の講師

(5) 授業の対象者

令和7年4月入国予定の技能実習候補生（25名）3クラス

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 当法人が保有する福祉人材（介護福祉士の日本語教師）を2週間現地へ派遣することで、現地で勉強している技能実習候補生に対して、来日前に高齢者や障害者の介護に対する正しい知識と技術を伝えることができた。(5-(2))